

3Q FY11/25

2025年11月期 第3四半期

決算補足説明資料

2025年10月10日



大阪有機化学工業株式会社

(東証プライム 4187)



■2025年11月期 第3四半期決算概要

外部状況

景気は緩やかな回復が継続していますが、物価上昇等を背景に個人消費には弱さもみられています。また、米国の通商政策の影響や中東をめぐる情勢等、依然として先行きは不透明な状況が続いています。

売上

化成品、電子材料、機能化学品の各事業で前年に比べて売上高が増加しました。この結果、第3四半期累計期間の売上高は前年同期比12.3%増の、266億9千9百万円となりました。

営業利益

売上高が大きく増加したことに加え、減価償却費の減少などにより、営業利益は前年同期比で54.5%増加し、46億3千1百万円となりました。

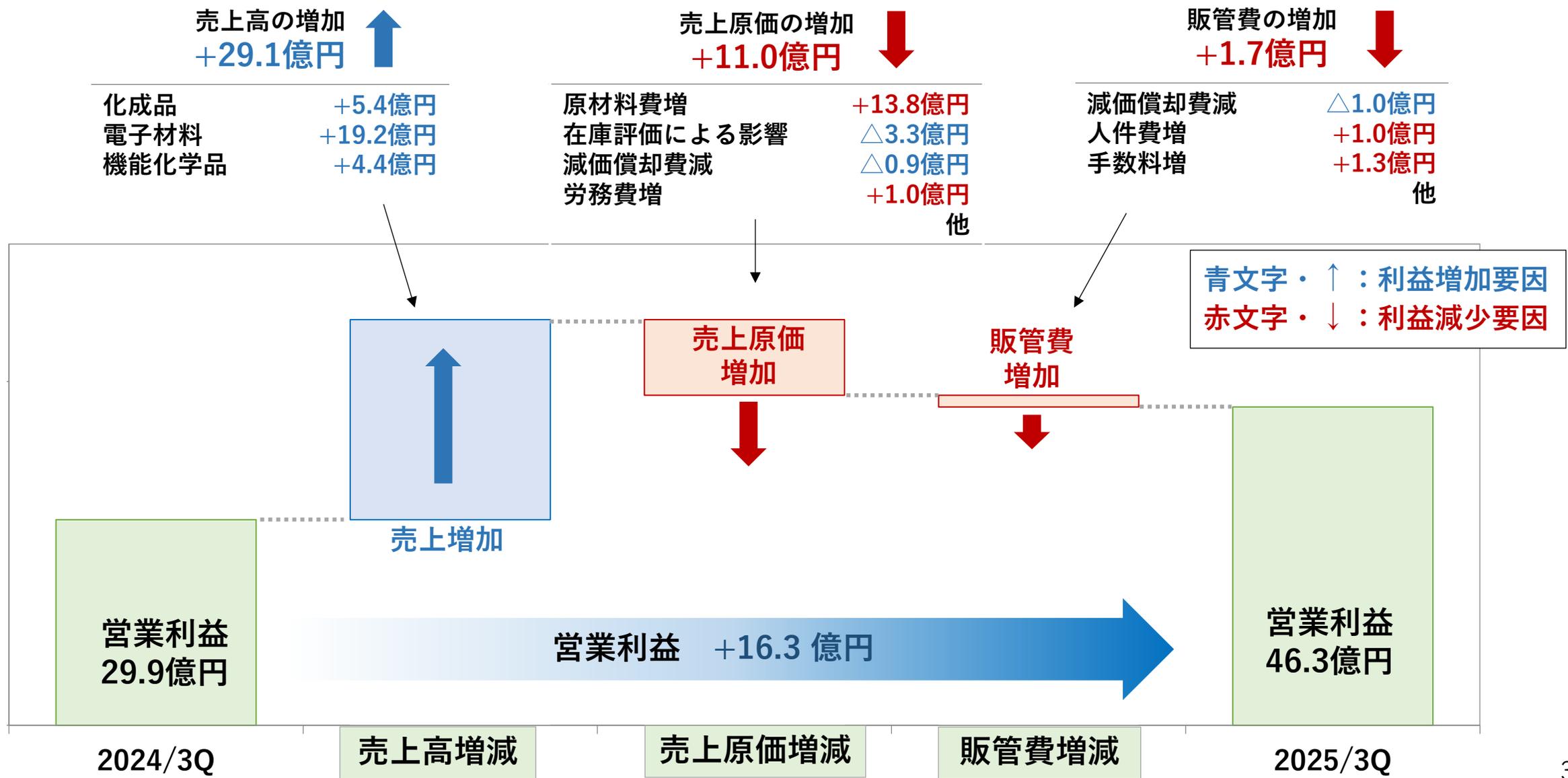
(百万円)

	2024/11 3Q累計 実績	2025/11 3Q累計 実績	前年同期比		業績予想比	
			増減額	増減率	通期業績予想	3Q時点での進捗率
売上高	23,784	26,699	+2,914	+12.3	34,000	78.5%
営業利益	2,997	4,631	+1,633	+54.5	5,000	92.6%
経常利益	3,067	4,844	+1,777	+57.9	5,200	93.2%
純利益*	2,813	3,435	+621	+22.1	3,500	98.1%
国内ナフサ (¥/KL) (当社推定)	77,167	67,566	—	—	—	—
為替 (¥/\$)	151	148	—	—	—	—

*親会社株主に帰属する四半期純利益

営業利益の増減要因

増減要因 電子材料を中心に売上高が大きく増加しました。売上原価、販管費はともに増加しましたが、減価償却費の減少や、在庫評価が増益に寄与しました。その結果、営業利益は16.3億円の増加となりました。



3Q累計 売上高	2025年 通期予想	進捗率 vs 通期予想
99.1 億円	129.0 億円	76.9 %

● 外部環境

- ・自動車生産は概ね堅調に推移。
- ・ディスプレイ関連は、中国の補助金政策などで堅調な状況が継続。

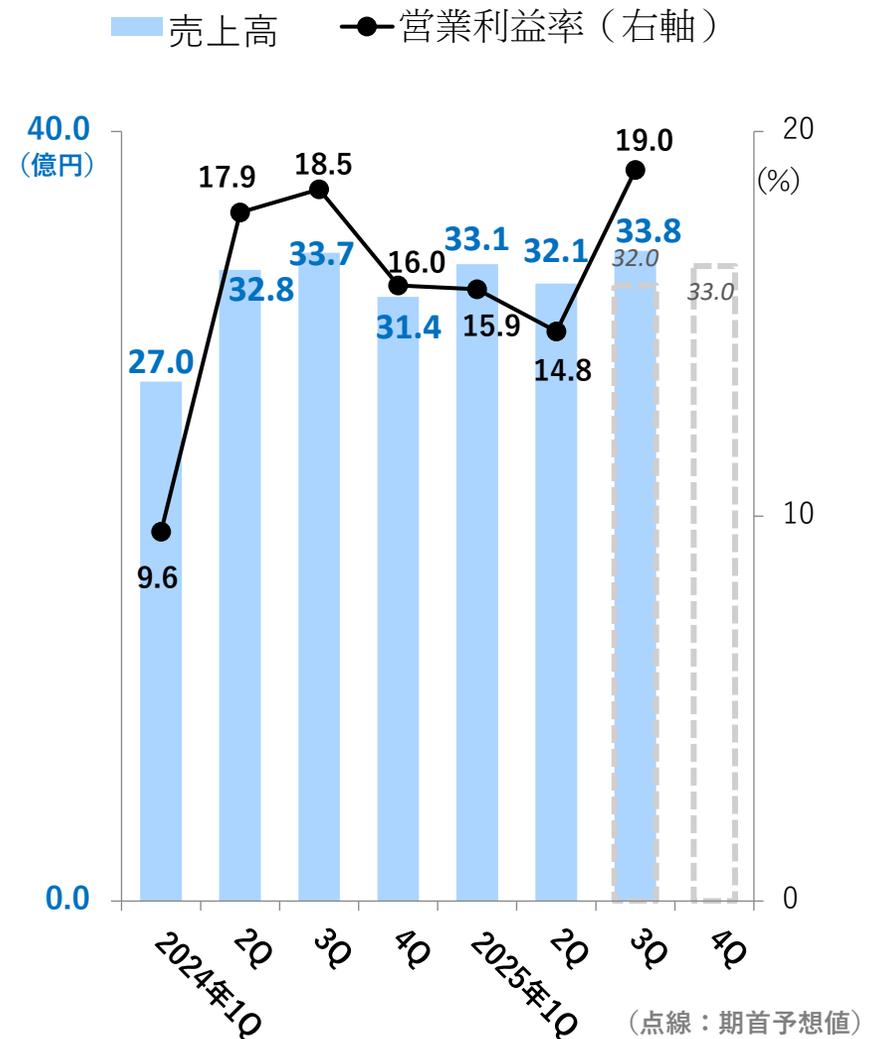
● 当社の状況

- ・自動車用塗料向けは回復傾向。
- ・ディスプレイ用粘着剤向け、UVインクジェット用インク向けは好調に推移。

● 市場におけるリスク

- ・アメリカの関税政策の影響。
- ・天然由来原料相場の高騰。
- ・急激な為替の変動。

売上高・営業利益率



3Q累計 売上高	2025年 通期予想	進捗率 vs 通期予想	売上高・営業利益率
122.6 億円	155.0 億円	79.1 %	

●外部環境

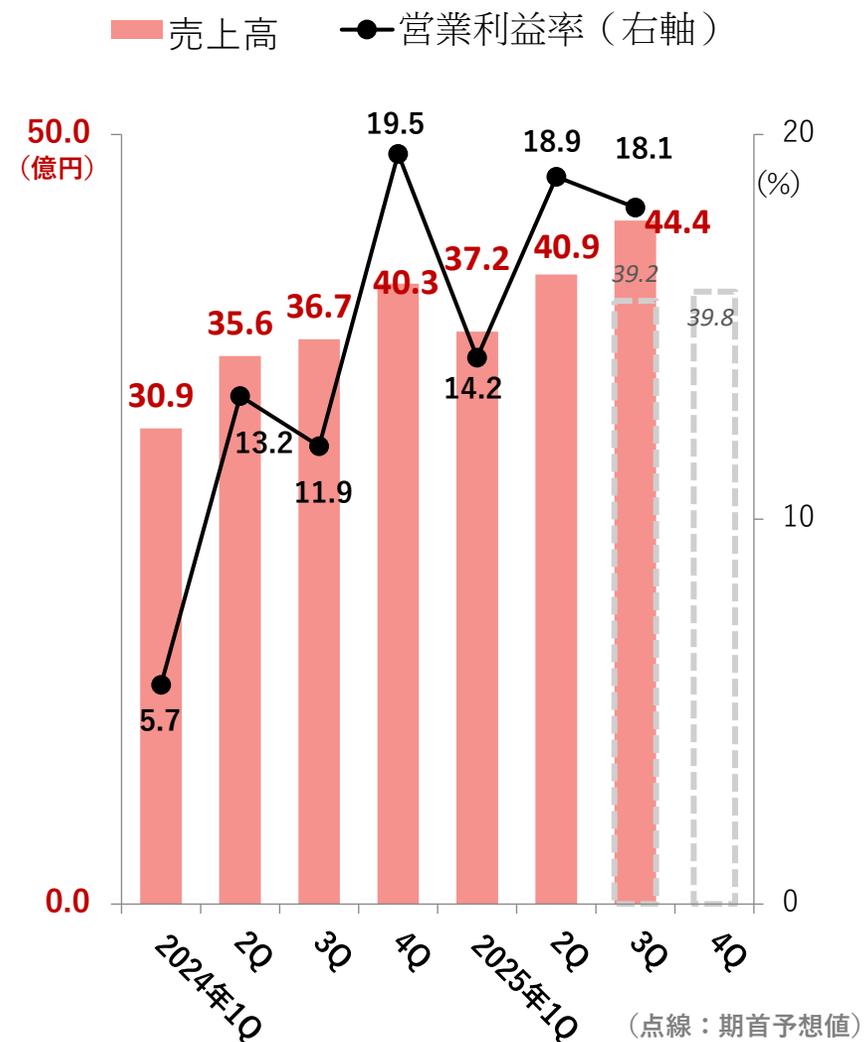
- ・半導体市場は最先端品が牽引して回復基調が継続。
- ・液晶ディスプレイ市場は中国シフトが継続。

●当社の状況

- ・主力のArFレジスト用原料は、回復傾向が続いており、YoYで大幅増。
- ・EUVレジスト用原料は、開発品が多いため振れ幅が大きく、今期は減少。
- ・表示材料グループは、堅調に推移。

●市場におけるリスク

- ・米中経済対立の激化。
- ・中国での半導体内製化の進展。



3Q累計 売上高	2025年 通期予想	進捗率 vs 通期予想	売上高・営業利益率
45.2 億円	56.0 億円	80.8 %	

●外部環境

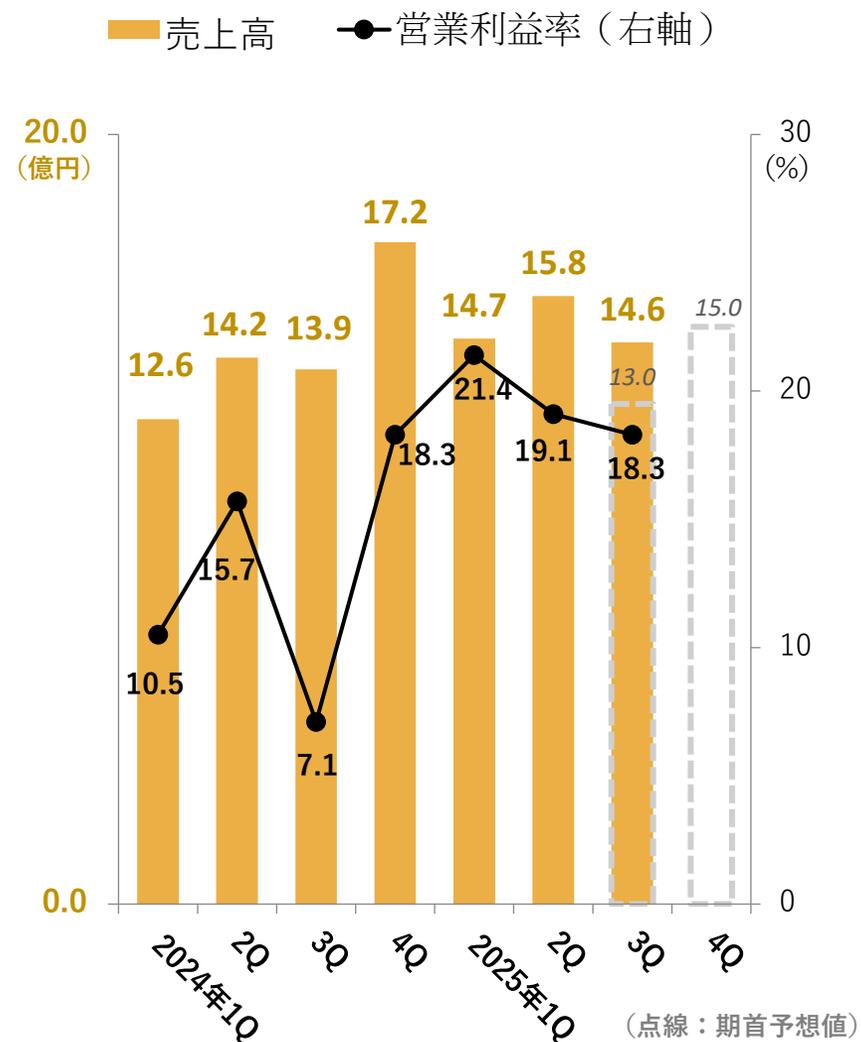
- ・国内の化粧品市場は堅調に推移。
- ・中国では景気減速に加え、ローカルメーカーの台頭で競争環境が変化。

●当社の状況

- ・化粧品原料は堅調。
- ・子会社の高純度特殊溶剤は好調に推移。
- ・一部の受託品が2Qに比べて減少。

●市場におけるリスク

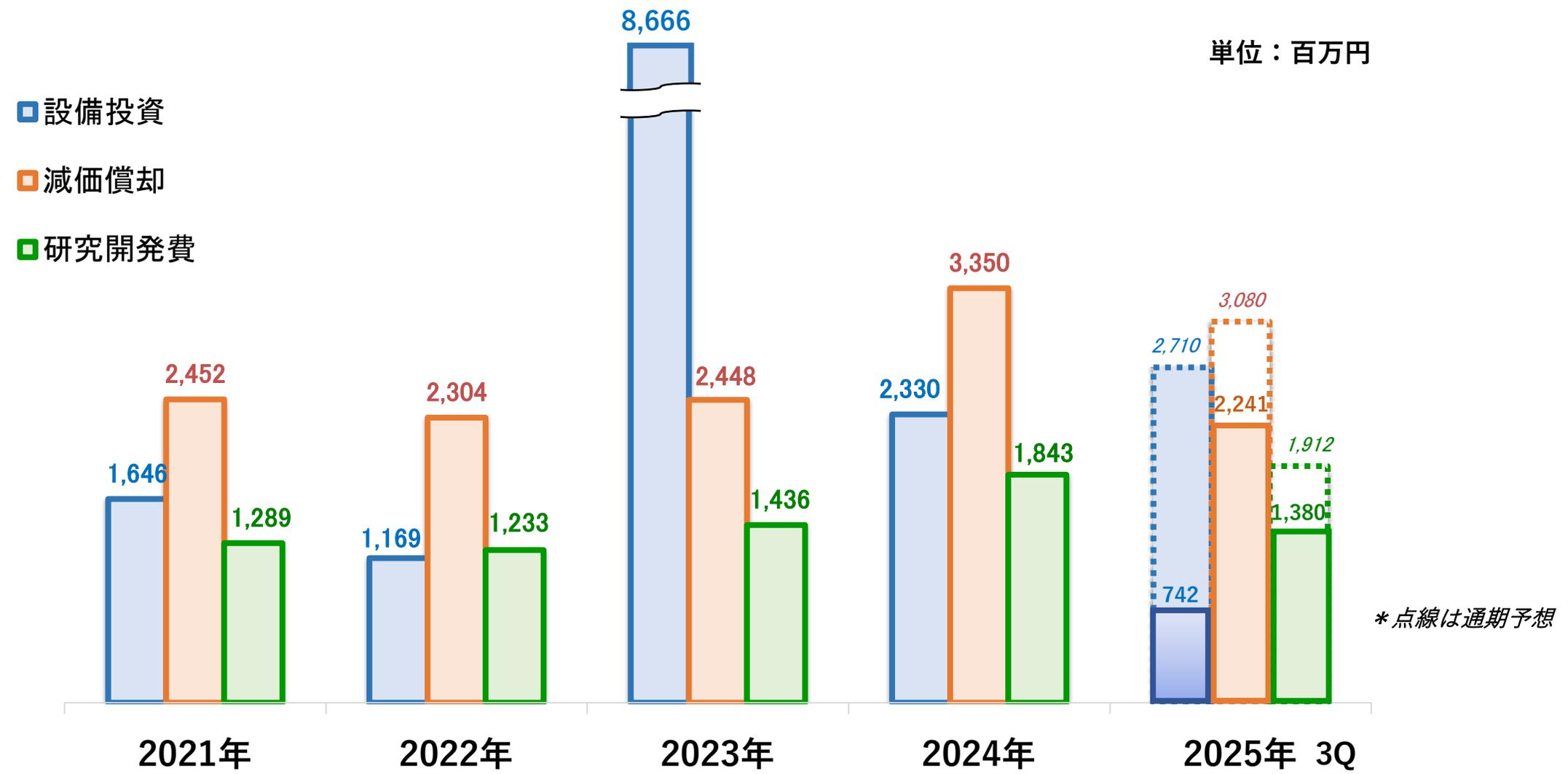
- ・中国市況回復の遅れ。



設備投資・減価償却・研究開発費の推移

概要

2023年に半導体材料製造設備などで、86.6億円の設備投資を行いました。
減価償却費は2024年をピークに減少傾向で、2025年3Q時点で 22.4億円（前年3Q：24.3億円）となりました。



< 将来情報に関する注意事項 >

本資料の業績予想や経営計画は、現時点において見積もられた見通しや計画であり、これまでに入手可能な情報から得られた判断に基づいております。従いまして、実際の業績等は、様々な要因やリスクにより大きく異なる結果となる可能性があり、いかなる確約や保証を行うものではありません。



大阪有機化学工業株式会社

【お問い合わせ】

管理本部 IR・広報担当

TEL 06-6264-5071 (代表)